

瑞若会創立50周年記念総会のご案内

瑞若会(愛知工業大学同窓会)創立50周年記念総会は「仲間と共に集まろう!」と題して下記の要領で開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

同期、クラブやサークル、近隣の同窓生でお誘い合わせのご参加も歓迎いたします。

- 【日 時】平成24年7月7日(土)
 【会 場】名古屋マリオットアソシアホテル
 (名古屋市中村区名駅1-1-4)
 【内 容】14:00～ 学科別同窓会 ……学科支部別に開催
 15:00～ 記念総会 ……瑞若会新会長の紹介と挨拶
 15:30～ 記念講演 ……著名人による講演
 17:30～ 記念パーティー ……会員同士の交流の場

乞うご期待!!

より詳しい内容やお申し込み方法につきましては2012年3月発送のリーフレットにてご案内いたします。

注意! 振り込め詐欺にご注意ください!!

本同窓会の名簿を悪用したとみられる振り込め詐欺の被害が発生しています。とくに30歳代の男性をねらって、右のようなハガキが送られていますが、同窓会とは関係ありませんので、くれぐれもご注意ください。ご家族の方々にも注意喚起をお願いします。



東日本大震災のお見舞いと義援金寄託について

この大震災では少なくとも23名の同窓生の方々が被災されました。同窓生の方はもとより、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

瑞若会として、9月29日に東日本大震災義援金50万円を中日新聞社会事業団に寄託しました。被災地の復興に少しでもお役に立ててもらおうと、6月に開催された瑞若会理事会において議決されました。会員の皆様のご理解とご協力にお礼申し上げます。また、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

学園創立100周年の募金について

平成24年に学園創立100周年を迎えるにあたり、記念館(仮称)の建設や教育設備の充実などの記念事業が行われます。これらの費用の一部に充てるための募金活動が開始され、同窓会にも協力の依頼がありましたので、皆様に協力を呼びかけたところ多数のご賛同をいただきました。誌面を借りてお

礼申し上げます。なお、現在ご検討中の方も、母校発展のためにご協力の程、よろしく願います。
 〈募金に関するお問い合わせ先〉
 学園創立100周年記念募金事務局
 電話 0565-48-8711(内線3117)
 E-mail bokin@aitech.ac.jp

OB掲示板へのご参加について

同窓会誌『みずわか』では、会員皆様の情報発信や近況報告の場としての誌面の活用を進めて参ります。次年度、「OB掲示板」にご参加いただける方は、ぜひとも情報をお寄せください。(本誌7ページをご参照ください)

愛知工業大学同窓会支部結成のために必要とされる手続き

1. 支部結成発起人(氏名、卒業年、学科)
 2. 支部同窓生氏名(氏名、卒業年、連絡先等)
 3. 支部別原案(見本を作成していますので、参考にしてください)
 4. 支部本部となる連絡場所…連絡先、住所、電話番号記入
 5. 正式に支部として承認されましたら、支部則に基づき支部長、副支部長、会計その他の役員を本部に届ける
- ※職場支部結成については、10名以上の同窓生が在籍していること

会員の皆様へ

ご住所や勤務先などの変更等がありましたらお知らせください。また、地域での同窓会活動の状況など皆様からの情報や、同窓会および同窓会誌『みずわか』に対するご意見も、お待ちしております。
 ※下記のメールまたはFAXでご連絡ください。

同窓会・同窓会誌『みずわか』に関するお問い合わせ、申し込み、ご連絡は **愛知工業大学同窓会事務局** まで

郵送 〒470-0392 豊田市八草町八千草1247

TEL 0565-43-1032 (FAX共通) 月～金 9:00～16:30

e-mail mizuwaka@aitech.ac.jp

※ご登録いただいた個人情報は同窓会に関する案内および大学から依頼された案内の発送のみに使わせていただき、本人の承諾なく第三者に開示することはありません。なお、個人情報の取扱いについては、HPIに明記した瑞若会個人情報保護ポリシーに準じます。

愛知工業大学同窓会誌(瑞若会会報) MIZUWAKA(みずわか)

発行日 2011年12月
 発行 愛知工業大学同窓会
 〒470-0392 豊田市八草町八千草1247
 Tel.&Fax.0565-43-1032
 発行責任者 伊藤 雅

編集 MIZUWAKA Vol.44 編集委員会
 岩田博之(チーフ)、北川一敬、葛谷新一郎、倉橋有希、
 高間智美(コーディネータ)、田近みえ子、立枕孝之、
 中野寛之、山田千代美(事務局)、横井浩治

印刷 株式会社 大東社
 〒494-0003 一宮市三条字大平27
 Tel.0586-62-1168 Fax.0586-62-1751
 制作 アクア・ビット

<http://www.ait.ac.jp/>

MIZUWAKA

瑞若会会報 vol.44



特集 愛工大発 防災・災害を考える



がんばるOB 同窓生の近況 OB掲示板 同窓会のお知らせと報告



close-up laboratory 研究室を訪ねて



2012年7月7日(土)瑞若会創立50周年記念総会が開催されます!

表紙写真: 2011年工科展「学校建築快適環境提案プロジェクト」の作品

愛工大発 防災・災害を考える

2011年3月11日に起きた東日本大震災は、未曾有の被害をもたらしました。東海地方も東海地震など地震の危険度は高く、有数の産業集積地でもあることで被害による日本や世界経済への影響も大きいと考えられます。

愛工大には地域の防災力を高めるための研究拠点として2005年に「地域防災研究センター」ができ、地震や災害などに関連した様々な研究が学内で行われています。また、防災や災害に関係のある仕事をしている同窓生もいます。

今回は、それぞれの専門の立場から、防災・災害に役立つ研究や知識、心構え、商品などについて紹介します。

畑中 錦也 消防副士長 (H15D)
豊田市消防本部中消防署

東日本大震災で活動して。災害への心構えと備えとは



豊田市消防本部中消防署に勤務し、緊急消防援助隊の一員として、3月26日から29日にかけて宮城県の被災地へ行き、災害現場での捜索活動などを行いました。災害は何時起こるかわかりません。それだけに日頃の心構えや対策が重要となります。

防災対策の基本は、「自助」「共助」「公助」です。万が一、災害にあった場合、まず自分の身を自分で守る「自助」。次に共に助け合う「共助」、それでも困難な場合に公的機関

に協力を求める「公助」になります。それぞれが対応力を高め、かつ連携することが必要です。さらには「産助」という、企業との連携も重要です。例えば、重機などがあれば、より安全性が高く、確実に迅速な救助活動ができるケースもあるでしょう。

次にあげるような災害対応の心構えと実際に災害が起きたときの適確な行動が大切だと考えます。

- 居住地の危険箇所及び避難所などを日頃からチェックすること
- 地元の消防団や自主防災会の重要性を認識し、若い人が積極的に参加すること
- 被災地から離れた地域の人も、食料や日用品の買い占めに走るなどせず、必要な量だけ準備し、冷静に対応すること
- チェーンメールに代表される不確かな情報に惑わされず、正確な情報を得ること



瓦礫などに覆われた被災地



東日本大震災での活動の様子

佐藤 暢也さん (61C)
イダ産業株式会社

地震によるOA機器や家具の転倒防止に役立つ商品を開発

地震の際には、機器や家具などが移動したり、飛んできたりすることでケガをするケースが少なくありません。そこで、地震の被害を軽減する目的で商品化したのが、OA機器などの転倒防止ゴムである、超粘着耐震ゴム「びくとも震」です。従来より自動車の防音材や制震材などを手がけておりましたが、こうした技術を応用して開発しました。

素材には粘着性が高く、柔軟性のあるポリウレタン樹脂を使用しています。震動吸収能力に優れており、OA機器などの四隅の底に貼付けた場合は、震度7に耐え、震動を吸収します。マイナス20℃から70℃の環境で使用することができます。

OA機器や家具など貼付けるものに穴を開ける必要がなく、可塑剤を使用していないため可塑剤による汚れがない点も大きな特徴です。装着も簡単で、粘着面が汚れた場合には水洗いをして貼り直しもできますので、家庭やオフィスでの震災対策にぜひ、活用してほしいと思います。

●お問い合わせ先
イダ産業株式会社
<http://www.ortex.co.jp>
TEL 0587-36-5781



びくとも震

地震がくる前の数秒間を生かしましょう!!

倉橋 奨さん (H15D) (株)エーアイシステムサービス
愛工大非常勤講師・地域防災研究センター 客員講師

東海地域の企業防災力向上を目的として設立された地域防災研究センターでは、研究成果に基づいて、緊急地震速報受信装置を利用した企業防災支援システム(Ai-SYSTEM)を開発しました。そのシステムは愛工大公認第一号のベンチャー企業である(株)エーアイシステムサービスが提供しており、現在では70事業所に利用いただいています。

緊急地震速報は、現在ではテレビやラジオ、携帯でも配信されるようになりましたが、その情報は「大きな揺れが来る」というものだけです。製造業など生産ラインなどに利用する場合は、制御す



るかしないかで経済損失が変わるため、「どの程度の規模の揺れが何秒後に来るか」の情報が重要となります。Ai-SYSTEMでは、立地点の地盤種別と位置情報を用いて、より高精度な予想震度と猶予時間を提供しています。機器制御の他にも、個々のパソコンモニター上への表示も可能にしました。

速報の提供のみならず、緊急地震速報の問題点の解決、よりの確かな情報を提供するために愛工大と共同で研究も進めており、研究成果の実装化を目指しています。



地震発生時のAi-SYSTEM/パソコン表示画面

小池 則満 准教授
工学部 都市環境学科

救命・救急活動に活躍するドクターヘリに必要なものは?

医師、看護師を乗せて救急現場へ向かうドクターヘリコプターは、阪神淡路大震災後に必要性が強く認識されるようになり、各地で導入が進んでいます。一方で、離着陸時に騒音やダウンウォッシュ(吹きおろし風)をとまなうため、ヘリコプターが着陸できる場所が確保されていなければ、救命・救急活動もできません。スムーズな活動のためには、できるだけ多くの場所の選定をしておき、都市計画や防災計画に位置づけて整備しておくことが必要です。

そこで、都市計画や社会基盤計画を専門とする立場から、着陸場所における騒音やダウンウォッシュに対する抵抗感などを調査しています。今後、ヘリポートの整備も含めた社会基盤計画で、どのような対策が必要か、地上での支援体制や社会から理解を得るための方法などについても研究を進める予定です。

2010年10月26日に愛工大の八草キャンパスのグラウンドで行われたヘリコプターの離着陸訓練



災害時に強いインフラ設備 —マイクログリッドによる電力供給システム—

一柳 勝宏 教授(43E)・**雪田 和人** 准教授
エコ電力研究センター

大地震や台風による災害が頻発しており、災害時における電力供給と電力エネルギーの重要性がこれまで以上に高まっています。エコ電力研究センターでは自然エネルギーの有効利用と電力の安定供給を目的として、学内にマイクログリッドを構築し、実証研究に取り組んでいます。

太陽光や風力などの出力変動が激しい場合にも、自然エネルギーを有効利用し、高品質な電力を安定供給するため

の給電システムを開発しています。本システム運用は約3年半が経過し、大きな故障もなく安定性が実証されました。災害などで電力が途絶えても、マイクログリッドの自立運転により電力が確保できます。太陽光、風力、小水力、地熱など、地域にあった発電方式を採用することで発電が可能です。

将来的にはいくつかのマイクログリッドを点在させることにより、災害時のリスクは分散されることになり、災害時に強いインフラ設備としてマイクログリッドによる電力給電システムが期待されます。

■学内のマイクログリッド施設



エコステーション



ディーゼル発電所



太陽光発電システム



風力発電システム

中村 栄治 教授
情報科学部 情報科学科

3次元計測からの防災研究

客観的なデータに基づいて事前に被害を想定し、必要な対策を施すことが防災のキーポイントです。私たち情報科学部のCG研究グループは、防災のための客観的データの提供という観点から研究を進めています。

■八草キャンパスでの計測の様子



具体的には、建物や道路をはじめとする街並みを、丸ごと3次元で計測できる三菱電機のMMS (Mobile Mapping System) と呼ばれる計測機器を搭載した車両を使い、南知多町、名古屋市港区、そして本学八草キャンパスを7月に計測しました。現在、得られたデータを基にして街並みや建造物をセンチメートルの精度で3次元CGとして再現できるよう、処理を進めているところです。



この処理が完了すれば、コンピュータ上で様々な災害シミュレーションを行う予定です。例えば、東海・東南海連動地震クラスの揺れに襲われた場合、建物がどのように揺れ、どのような被害が出るかを、コンピュータによる計算のみで予測することを考えています。また、想定される津波被害についても、破壊された瓦礫がどのように流され、火災などの二次災害がどのように発生するかなど、高精度・高精細なCGの特徴を生かした予測を行うことを計画しています。

山本 義幸 講師
工学部 都市環境学科

衛星データで災害時に被害状況を把握

災害時に被害建物の把握は重要事項であるが、現地での目視による正確な被害程度の把握には時間がかかり、状況によっては立ち入れず調査ができない場合があります。このようなケースでは被害の全体像の把握の一手段として衛星データが利用されてきました。

観測対象を遠隔地から電波や光を使って観測する技術がリモートセンシングと呼ばれるものです。地表500~700kmを飛んでいる衛星からの電波や光で地球の観測を行います。精度では直接探査に劣るものの、瞬時に広範囲を判断できるという点で活用されています。

●国際災害チャータのホームページ
<http://www.disasterscharter.org/web/charter/home>

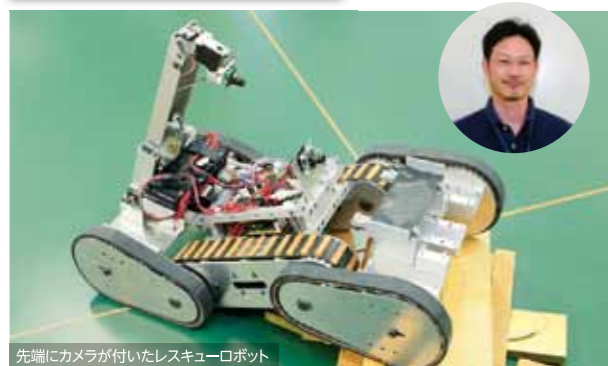
大規模な災害発生時には、参加宇宙機関が地球観測衛星データの無償提供を行うことにより、災害から生じる危機の軽減等に貢献する国際災害チャータという枠組みがあります。提供されるデータにより建物や冠水範囲などの被害状況のある程度、判断することができます。先の東日本大震災のときには、さまざま各国の衛星データが無償で提供されました。



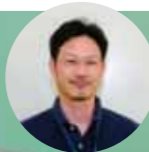
衛星データを用いた研究

奥川 雅之 准教授
工学部 機械学科

災害救助活動を支援するロボットの開発とは?



先端にカメラが付いたレスキューロボット



集合住宅に住む高齢者、障害者や外国籍住民等「災害時要援護者」の増加が被害をよりいっそう深刻化させる要因となっています。その点に着眼し、災害時要援護者を対象とした災害・防災ロボットの開発をしています。

リアルタイム地震情報を利用し災害時要援護者に対して避難行動を支援するのが「災害時避難行動支援ロボット」です。集合住宅に設置され、住人を対象に災害発生時の地震情報と避難行動をユ

放射線とは?日常生活の中の放射線 どのように注意すべきか

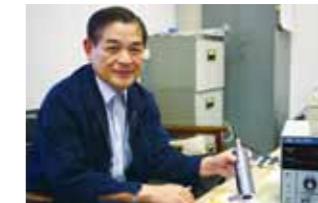
放射線には3種類あり、α線は内皮をふくむ皮膚に、β線は内蔵や組織に、γ線は身体全体に放射線損傷を与えます。放射線の量を表すベクレル[Bq]とは、1秒間に放つ放射線量のことで、シーベルト[Sv]とは、生体に与える影響を考慮した吸収線量のことです。

事故以前でも被曝する自然放射線量は表の通りで、年間に合計1~2mSv被曝し、放射線被曝のない場所はどこにも存在しません。その外、医学から、胸のX線間接撮影1回で0.1mSv、人間ドックでの胃のバリウムX線撮影1回で、20mSvも被曝します。飛行機の東京-ニューヨーク直行便を往復乗ったら0.2mSv程度被曝します。国際放射線防護委員会による被曝基準として、これ以外の放射線は年間1mSv以下との勧告があるので、この年間1mSvの被曝は仕方ないと思ってください(1mSv/年=0.11μSv/時)。

福島原発事故による放射能汚染は、程度の差だけで日本全体が汚染されていると思う必要があります。今、愛知県では大気中には福島原発による放射能はほとんど存在しないので、食物中の放射能に注意すればいいと言えます。これは体内被曝中心で、一度取り込むと体から排泄されない限り、被曝し続けることになるので要注意です。放射性セシウムの場合、野菜(農林水産省)は500Bq/kgなら規

大地から(豊田市)	0.5mSv/年(0.6mSv/年)	重い放射性同位元素(ラドンを除く)から放出される。地面から離れると弱くなる
宇宙から	0.4mSv/年	宇宙(主として太陽)から放出されてくる。高層にいけば強くなる放射線
ラドン	1.2mSv/年	ラドンという重元素だが、希ガス元素なので空中に存在することが多い(幸いにも日本は少ない)
人体(内部被曝)	0.3mSv/年	体内に取り込まれた物質からのもの(カリウム40他約7000Bq)

森 昌弘 教授
基礎教育センター 自然科学教室



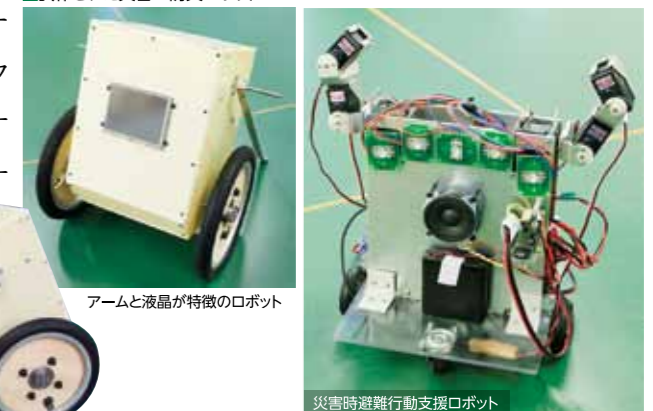
制値以下として出回ります(放射性セシウムの規制値には放射性ストロンチウムも含む)。吸収線量の計算は面倒なので、体内被曝の放射線総量7000Bqによる吸収線量が0.3mSv/年を利用して、野菜1kgの規制値である500Bqの放射性セシウムが1年間体に入っていたら0.02mSv/年被曝するという具合に比例概算してみてください。もちろん体に食物の全てが吸収されることはないですが、どのくらい体内被曝するかの見当にはなりません。

被曝はDNAにも深刻な影響を与えるので、この数年の対応は年齢や性別により違ってきます。人間ドックを年1回受けている者(私も含む)は、20mSvも医学であびているので、市場に出回っているどこの農産物(上の計算の野菜1kgによる体内被曝は1000倍も小さい)を食べても医学分には届きません。しかし、結婚する人やしたての人、子育てをする人、女性の方や青少年は食物の産地に注意すべきです。特に、放射性ストロンチウムは骨の組織に取り込まれるので、ほぼ一生その放射性ストロンチウムとつきあっていくことになります。ですから、海産物を中心に注意して摂取していく必要があります。放射性セシウムの方は100日位で、体外に放出されるようです。

ニバーサルに伝達することを目標にしたものです。また、レスキューロボットの開発では、高難易度の不整地を走破するために能動クローラ機構が搭載されているレスキューロボットが開発されていますが、操縦者の熟練を要するのが難点。受動クローラ機構を導入すれば、遠隔操縦支援を行うことで、操縦者への負担を減らすことができると考えています。

今後、試作ロボットの改良・改善をして現場投入を目指しています。

■試作された災害・防災ロボット



アームと液晶が特徴のロボット

災害時避難行動支援ロボット



Interview

Takahashi Shigenobu (48K) 株式会社東祥 代表取締役社長

チャレンジを重ね新事業を開拓

面白さを感じるようになったとか。そんな矢先の4月、受注が途絶えます。「今思えば、年度末に向け



Takahashiさんが手がけるスポーツクラブ

て公共事業で芝生が必要な時期にあたっていたんですね。そこで芝生の販売先としてゴルフ場に着目。「初めての分野で人脈もなく、ゴルフ芝を扱う社長宅に3ヶ月住み込み、無給で仕事を覚えて何とか受注にこぎつけました」。6コースの造成・芝張りを終えた頃、ゴルフ場の建設ラッシュが終わります。

手がけた事業は13種類

28歳でゼネコンの土木下請け工事をする東和建設株式会社を設立。当時は公共事業も盛んで、実績も経験も無い状態から順調に事業を拡大しますが、直接、誰かに喜んでもらえる仕事をしたと、一般へと事業内容をシフトします。「最初に手がけた分譲マンションは、なかなか売れなかったですね。デザインなどに凝りすぎ、相場の1.5倍近い高額な物件になってしまった…。そこでお客様のニーズを徹底的に研究して販売した2棟めは、

2ヶ月で完売しました。その後もゴルフ練習場、外食産業、ホテルと、様々な事業を手がけ、

「これからは施設を造り、サービスを提供する施設サービス業だと考えたんです」。

ひと味違うスポーツクラブを全国展開

健康に関心のある方々に年中楽しんでもらえる施設を頭に描き、1996年にスポーツクラブをオープン。「子どものスイミングスクールも兼ね備えた他のクラブとは一線を引き、大人だけを対象にした居心地のいい環境づくりにこだわりました」。その結果、スポーツクラブ経営は会社の中心事業になるまでに成長しました。「今年中に全国50店舗、さらに100店舗まで増やしたい」と意欲的に語ります。

常に時代を先取りし、どうしたらお客様に喜んでもらえるかを考え、新たな事業へチャレンジ。一方で採算が見込めない事業からは利益が出ていうちに撤退。見事な経営手腕で、32期、経常利益で赤字なしというすばらしい業績を達成しています。

先輩と祖父のひと言で人生を考える

最初のはんびりと過ごしていた学生時代。20歳になって「君は何を考えて過ごしているのかわからない」という先輩からのひと言がきっかけで、自分の人生に向き合うようになったそうです。様々な本を読み、その中の一冊にあった「人生は有限である」という一文が心に残り、「悔いのない人生を送ろう」と思ったとか。そんなある日、祖父から高校時代に言われた「人生は3度チャンスがある。チャンスを有効に使え」という言葉がふと脳裏をよぎったと言います。

家業を手伝いながら浮き沈みを経験

大学4年のとき、芝生販売をしていた実家で芝生の在庫の山を見て、営業に飛び回ること。最初は全く売れなかったのが、売れ出して商売の

がんばるOB

Kobayashi Kenfumi (H4M・大学院 生産システム工学 専攻修了) マルヤス工業株式会社 第一技術開発部 グループ長

Interview

仕事を通して世の中の役に立つ

エコラン参加が印象に残る

高校生の頃からバイクや車に興味があり、機械工学科へ入学、さらに大学院へ進んだKobayashiさん。学部生時代の思い出は1リットルのガソリンでどれだけ走れるかを競うエコランへの参加。「愛工大が初めて参加するときに車造りから関わりましたが、失敗ばかりでした。競技開始後も修理しているような状況でした。他大学のレベルの高さに驚きつつ、追いつくつもりでがんばった結果、2年目に何とか完走することができました」。

大学院での学びが仕事の基礎に

大学院へ進むと当時の担当だった山田教授からは研究の仕方、成功のための実験の仕方など考え方や方法などを学んだと語るKobayashiさん。「実験装置を作ることも多く、結構難しいことに挑戦していたと思います。大学院時代の研究の進め方は、今の仕事にもすぐ役立つんですね。教授から原理原則を貫いてものを見ることの大切さを学び、今でも原理原則から外れた現象は起こらないと自問自答しながら仕事を進めているそうです。

入社2年目で新製品の設計を担当

「卒業研究で少し関わりがあり、先生からすすめられたこともあって、この会社に入るようになったんです。当時はまだ規模も小さく、新卒の大学院卒は自分が初めてでした」。

最初から技術部に配属されたものの、当時はメーカーからの依頼でメーカーの設計図に従ってものづくりをしていたとか。ただ、会社が自社の設計によるものづくりを始めた頃でもあり、入社2年目には開発に携わるようになったKobayashiさん。「受注してから量産まで1年と期間も短く、設計担当は最初のうちは自分一人で大変でしたね。途中から応援をもらって無事、量産にこぎつけたそうです。

やりがいのある職場と仕事

「当社は設計担当が図面から評価、解析まで行います。大変な面もありますが、仕事の全体像をつかめるという利点もあるんですよ。後輩たちにも同じように指導しています」。

以前はエンジニアとして他社と技術を競っていたのが、管理業務も多くなった今は、お客様に喜んでもらえる



ような製品づくりを第一に考えるようになったとか。

排ガス規制の強まる中、自動車の燃費向上や排ガス浄化などを念頭において製品開発をしていくことは、地球環境を守ることにつながり、やりがいのある仕事だと言います。「世の中の役に立っているという思いがありますね」と語るKobayashiさんからは、仕事への誇りと自信が感じられます。



Kobayashiさんが開発した自動車部品

Letter

小林 広幸さん (H13E)

3Dの立体映像を仕事に

東京で6年ほど、立体映像・アプリケーションなどコンテンツを制作開発する仕事をしています。写真は立体映像のハイライトシーンですが、大手家電メーカーさんのスマートフォンにプリインストール映像として採用されました。私は提案から納品までのスケジュール管理と調整、契約締結に関わりました。いわゆる何でも屋ですね(笑)。ハードウェアへの映像の最適化などは大変ですが、良い映像を作るためには当たり前に必要な事なので、苦労に感じた事はありません。お客



OLYMPUS VISUAL COMMUNICATIONS CORP.

様から、きれいで見やすい立体映像だという評価を直接、もしくはインターネット上などでいただいたのが何よりうれしかったですね。3Dにしかなれない、新しい楽しさと驚き・お役立ちを人々に届けたいという気持ちで毎日頑張っています。

昨今の3D普及にとともに、シャープ様・富士通様の3D対応スマートフォンやパソコンに3D映像をプリインストールしていただきました。機会があれば、オリンパスビジュアルコミュニケーションズ(株)の立体映像をご覧ください。また、立体映像の活用など、下記メールアドレスやFaceBook経由で、何でも気軽にご相談下さい! e-mail:ovckoba@gmail.com



Letter

太田 陽介さん (H19M)

在学時の心のまま

私はヤマハ株式会社に勤めています。管弦打楽器事業部の生産技術課という部門に所属しており、主に商品の生産に必要な設備の設計、調達を行い、生産開始までのフォローをする業務を行っています。

愛工大在学時より、サークル活動の管弦楽団で音楽を奏でる楽しさと、道具である楽器の魅力に心奪われ、楽器メーカーに就職。専攻である機械工学の知識を活かす事のできる現在の職場での勤務となり、5年目になります。



生産技術課の業務の中でフルにその実力を試される事になるのが、新商品の生産移行となります。商品開発部門と職人の手によって製作され、プレイヤーの評価を受けた試作品の機能をそのままに量産できるよう、現在の工程に足りない部分の道具、設備を準備しなければなりません。プレッシャーも大きいですが、新商品として全世界に発表され、お店に並び、プロ、アマ問わず多くの奏者によって演奏してもらう事が何よりも嬉しく、この仕事に携わる事ができて良かったと改めて感じる事ができます。

音楽に楽器にときめいた在学時の心をそのままに、楽しく仕事をしています。

OB 掲示板

ご報告 競技スキー部OB・OGの皆様へ!

競技スキー部OB会では、年に1回、OB会を開催しております。今年度は6月に開催し、17名が集まりました。来年度は設立から50年を迎える節目の年。多くの皆様の参加をお待ちしております!

※住所変更などでOB会案内を届けられない方が何人かいます。案内が現在届いていないOB・OGの方は、事務局までご連絡ください。



■連絡先: 愛知工業大学 競技スキー部OB会事務局
〒470-0392 豊田市八草町八草 1247
愛知工業大学キャリアセンター一気付 西 裕之 宛
電話: 0565-48-4655
Mail: hiroyuki_nishi@aitech.ac.jp
HP: <http://aitech.ac.jp/~aitski/>

お知らせ 囲碁同好会OBの皆様へ!

当時の囲碁同好会の名簿がありません。作りたいと思いますので、ぜひ、連絡をください。皆で囲碁合宿をやりましょう!

■連絡先: 牧 (旧姓 深谷) 誠
電話: 090-7028-0541 / 0563-32-1768

ご報告 土木工学の卒業生による「海上の杜 技術士会」発足



平成23年6月4日、ホテルサンルートプラザ名古屋において、愛知工業大学工学部都市環境学科土木工学専攻(旧土木工学科を含む)の卒業生による技術士の会「海上の杜 技術士会」の設立総会を行い、会員総数65名でのスタートとなりました。本会は、愛知工業大学を卒業して実社会で活躍中の技術士が参集し、①母校の教育・研究への協力を通して後輩育成と母校発展へ寄与する ②会員相互が刺激を与え合って技術の研鑽と発展に繋げる ③これらの活動を通じて交流、親睦を深め会員個々が技術の裾野を広げる の3つを設立の志、理念として発足した会です。

初年度の活動としては技術研修会を10月1日に実施しました。今後も会員のもつ豊富な実社会経験などを学生に伝える取り組み、技術士の役割・技術士制度への理解促進に繋がる情報や話題を提供する等の活動アイデアについて検討しております。会員一同が協力し、社会貢献と母校発展に寄与する有意義な会へと育てていきたいと考えておりますので、皆様のご理解、ご支援を賜ります様お願い申し上げます。 会長 大野 良蔵 (44D)

※愛工大都市環境学科のホームページに本会の情報を掲載しています <http://aitech.ac.jp/ce/>

ご報告 中・四国支部開催の活動報告会に参加して

道家秀男瑞若会会長とともに事務局の一員として、平成23年度中・四国支部活動報告会に参加しました。報告会の会場は南国高知・桂浜、坂本龍馬の銅像が目印です。参加者は、大川支部長をはじめ総勢14名でした。報告会では、諸先輩方と卒業後の活躍の話、学生時代の話、大学の報告などを行いました。一番盛り上がったのは、同窓生同士とは知らずに付き合いが始まっていた方が少なくないということです。「世間は思わぬつながりがある」と、参加者一同感じました。私も年齢や業種を超えた同窓生と話ができて楽しいひとときを過ごすことができました。皆さんもぜひ参加してみたいはいかがでしょうか。次回のご参加をお待ちしております。



事務局次長 内田 敬久 (H7R)

ご報告 関西支部 平成23年度例会開催! ~第2回AIT関西交流会(大学訪問)~

大学卒業後は大学の動向を知る機会も少なくなりがちということで、関西支部は今年の例会で大学訪問を行いました。

新しく完成した、八草キャンパス新「1号館」と自由ヶ丘キャンパスの見学を兼ねて訪問。設備の整った新しい教室などを見学し、参加した会員からは「夢みたいなキャンパスだ」「企業に比べても設備がいい」「またゆつくり訪れたい」などと感想が聞かれました。



編集委員会

ご報告 愛工大八草キャンパスにて電気工学同窓会を開催しました!

今回の同窓会は50周年記念大会ということもあり、新しくオープンした大学の施設などを見学しつつ、教職員の方々や後輩の皆さんとふれあう機会となるよう、愛工大祭の開催されている10月8日(土)に八草キャンパスで行いました。

12時からの受付以降、14時半の総会まではそれぞれに学内を自由に見学する時間としました。工科展で研究室後輩の展示に興味深く見入ったり、クラブが主催するイベント会場を訪れたりして、キャンパスの雰囲気を楽しめるいい機会となったようです。総会に続き、15時から、からくり人形師で愛工大客員教授の玉屋庄兵衛先生と同総合技術研究所客員教授の末松良一先生による講演「からくり人形とロボットの実演」。講演を通して、ものづくりのすばらしさを改めて実感されたのではないかと思います。

その後、1号館のカフェで懇親会を開き、旧交をあたためました。電気工学同窓会学年幹事 中野 寛之 (H10E)

AIT OPEN FORUM

6会場でAITオープンフォーラムが開催され、支部総会も3会場で開催しました。

第89回
2011/9/10
京都タワー
ホテル

「中国の建築文化の地域性について」 ~華北・華中・華南地方の仏教建築~

講師: 杉野 丞 教授
工学部 建築学科 建築学専攻



「中国は4千年もの長い歴史の中で高度な建築文化を築いてきた。秦・漢代には広大な都城を建設し、都市の建設と中国固有の建築を生み出し、隋・唐代には仏教の東漸にともなって寺院建築を日本に伝え、我国では飛鳥・奈良時代に鎮護国家を祈願して数多くの伽藍建築が建立され、大陸の本格的な木造建築が移入された」との切り口から中国の建築文化の地域性や、日本で受容された建築様式との関連性について、解説がなされました。

第90回
2011/9/17
金沢
都ホテル

「近未来の生活像」

講師: 建部 謙治 教授
工学部 建築学科 建築学専攻



近い将来、都市空間や住宅は大きく変化することが予測され、未来型の建築とはどのようなものなのか、社会生活が直面する諸問題を解決する手段としての生活支援ロボットとの共生がどのようになるのか等の紹介があり、また、近未来の生活像についても講話がなされました。



■「北陸第9回支部総会」同時開催!

瑞若会北陸支部20人の支部役員、卒業生と大学同窓会本部から道家秀男会長はじめ3人の役員が出席。道家会長からは、来年の「学園創立100周年」事業及び大学の現状報告を含めた挨拶。引き続き、橘照泰支部長の挨拶後、総会次第に沿って議案が提議され、審議の結果、全て承認されました。支部役員の改選がなされ、中村洋之進新支部長(52D)、袖野貴義新事務局長(59B)がそれぞれ選出されました。

第91回
2011/9/24
岐阜グランド
ホテル

「飛べない若鳥」 調査データに基づく青年の自立と自律

講師: 甲村 和三 教授
基礎教育センター総合教育教室



「大人の誰しもが自分の青年期と比べて、「今どきの若い者は」と思いたくなることはありませんか。巣立ちのときを迎えてもお飛び出せない若者の実態と家庭・学校・社会からの支援の必要性について、調査データを基にお話します」と提言。大学入学は即、自立ではない。1) 社会人基礎力、2) 自立と自律、3) 就職活動時の自己理解分析結果、4) キャンパスライフにおける居場所感の確率などについて講話がなされました。

■「岐阜県第6回支部総会」同時開催!

瑞若会岐阜県支部22人の役員、卒業生と大学同窓会本部から道家秀男会長はじめ4人の役員が出席。道家会長から、来年の「学園創立100周年」事業と大学の現状報告。中西保幸事務局長の挨拶後、議案を審議の結果、全て承認されました。次回(第7回総会)役員改選の為の準備を行うこととして、久富政俊支部長のもと、引き続き、支部の運営がなされることとなりました。

第92回
2011/10/1
四日市
都ホテル

※「司馬遼太郎とものづくり文化」基礎教育センター 総合教育教室 森 豪教授は都合により「中止」となりました。

■「三重県支部総会」開催!

瑞若会三重県支部20人の役員、卒業生と大学から後藤泰之学長、



大学同窓会本部から道家秀男会長はじめ4人の役員が出席。後藤学長の挨拶に続き、道家会長から、来年の「学園創立100周年」事業と大学の現状報告。畦地耕司三重県支部顧問(元支部長)の挨拶後、議案を審議の結果、全て承認されました。支部役員の改選で、中森博文新支部長(51A)が選出されました。

第93回
2011/10/16
ホテル
ブエナビスタ

眼力(メヂカラ)と日常生活

講師: 石垣 尚男 教授
経営学部 経営学科 スポーツマネジメント専攻



【見る力を実践で鍛えるDS眼力トレーニング】(任天堂)を監修し、「トレーニングブームが自分の能力の再発見や、それらを鍛えてより良い生活につなげるというプラスの影響をもたらしている」との提言から①視力、②眼力(メヂカラ)、③眼力(目利き)の話と、1) 日常生活と視力、2) 日常生活とガンリキ、3) メヂカラとは、4) 日常生活とメヂカラ、5) メヂカラのトレーニングとその効果について解説がなされました。

■「長野県支部設立準備委員会」同時開催!

「同窓会長長野県支部」立ち上げのため、長野県在住同窓生と山田英介会長代理はじめ同窓会本部役員4人による交流会を開催。松本壮一郎副会長からの支部設立の経緯等の説明後、協議。支部役員を互選の結果、加藤満弘支部長(54A)、熊谷弘副支部長(H6K)、矢原陽子会計・幹事(H16A)の選出がなされ、来年の理事会・総会を経て正式に支部設立となる予定です。



第94回
2011/10/22
ホテルクラウン
パレス浜松

本学は全国の大学で最初に 緊急地震速報を導入しました!

講師: 正木 和明 教授
工学部 都市環境学科 土木工学専攻



「東日本大震災で、緊急地震速報の有用性が検証され、広く知られるところとなりました。本学は緊急地震速報を全国の大学に先駆けて平成19年2月から導入し、5回の避難訓練を行い、学生と教職員が一体となって防災に取り組んでいます」と提言。愛知工業大学「緊急地震速報と避難マップ」の資料とともに、緊急地震速報の仕組みと活用状況について講話がありました。

第95回
2011/10/29
岡山ロイヤル
ホテル

CSR「環境・食料問題への取り組み」 ~食べ物の「モッタイナイ」をなくそう~

講師: 石井 成美 教授
経営学部 経営学科 経営情報システム専攻



「残飯などの廃棄・処理量が減ることにより、税金負担の軽減、廃棄コストの削減、地域CSR向上、国内自給率アップ、環境にやさしく経済的など効果が期待できる」と提言。①ご飯などの小盛り申請、②食べきれない食材の申請、③食べきれなかった食料の持ち帰りなどの提案と、持ち帰り容器「ドギーバッグ」を紹介。一人ひとりのアクションが日本の食料問題や環境問題につながっているとの講話がなされました。

研究室を訪ねて

大学の基礎研究や装置を活用し、 企業と産学連携を進める

工学部応用化学科応用化学専攻 小林 雄一 教授
株式会社MARUWA 開発センター主席研究員 墨 勝博さん (H6C)

企業からの依頼に応える

セラミックスの材料評価を行っている小林教授。高性能な電子顕微鏡を使い、材料の原子レベルの組織を調べて材料特性の評価をしますが、必ずしも高価な分析機器だけでなく、材料の光学特性を利用した組織観察ができる偏光顕微鏡等も利用します。長年にわたって基礎研究を行ってきた教授の元には企業からの依頼も多いと言います。論文を読んだり、学会で話を聞いて依頼されるケースや、株式会社MARUWAさんのように小林教授の研究室出身者がいる企業からの依頼もあるそうです。

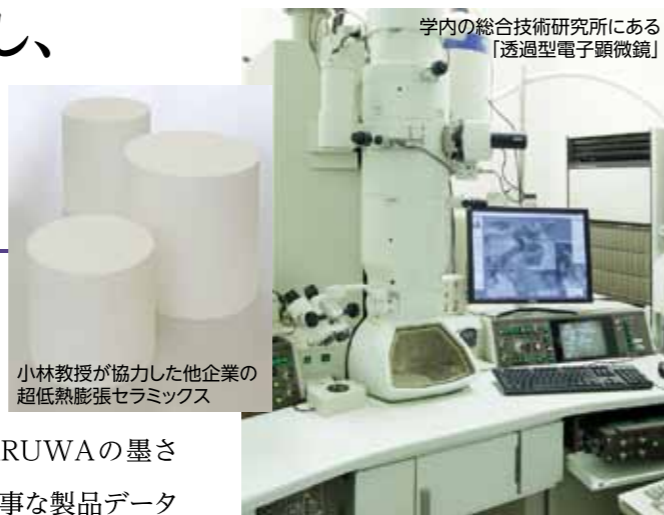
産学連携には信頼関係が大切

企業の依頼を受けるにあたっては信頼関係も非常に大切な要素だと言います。「墨さんは学部と大学院含めて6年の付き合いがあり、彼の知識レベル

や人となりも十分にわかっていますので、話をすることもスムーズです。小林教授が協力した他企業の超高温膨張セラミックスですね。株式会社MARUWAの墨さんにとっても企業の大事な製品データを託すには、信頼できる先でなければいけないということもあり、自身が築いてきた先生との関係により安心して依頼ができるそうです。「実際、どこまで外部にお願いしていいものか迷う部分もあるんですが、先生とは一緒に研究をさせていただいた経験から、期待するデータが得られると予想できることも大切なポイントです」。

企業が大学と組むメリットは

「今回は開発した製品について、基礎データが必要だったのですが、自社の装置だけでは評価ができない部分があり、先生へお願いしました」と墨さん。安定した生産と品質管理には基礎データは欠かせないと言います。「材料には適した装置や評価方法があり、その道筋をつけられるのも基礎研究をしている大学ならではの点だと思います。それに、高度な測定機器は専門知識があって解析できる人材がいなければ導入しても使いきれないことがあります。その点、大学では教育の一環で知識を深めたり研究の中で解析も行っていますので、役に立てる部分も大きいと思います」と小林教授。「共同で取り組むことで製



小林教授が協力した他企業の超高温膨張セラミックス

品化が早まることもあります。専門の方をお願いすることで直接、様々なアドバイスも受けられますし、それが次の製品開発に向けて役立つことも多いですね」と、墨さんは大学とのコラボレーションに手応えを感じているようです。

大学としても産学連携は大切

産学官連携は、大学の学術的・基礎的研究を企業のものづくり技術と融合させることによって先端的なものづくりへと結びつける極めて重要な国の施策です。「規模が小さく高価な設備を持ってない企業にも世界で生き残るために積極的に大学を利用してもらい、高度なものづくり、オンリーワンのものづくりをしてほしい」と小林教授は語ります。



株式会社MARUWAの墨さん

現代のように産業がグローバルに展開していく中では、差別化した新製品の開発や製品化のスピードが求められています。愛工大では学内設備や人材を企業に提供し、ともに研究開発を進めたり、人材を育成していくように努めています。同窓生の皆さんもぜひ、大学の資産を活用してみたいはいかがでしょうか。

産学連携を視野に入れて 3次元インテリジェントシステムを導入

工学部機械学科機械工学専攻 松室 昭仁 教授
大学院工学研究科博士後期課程生産・建設工学専攻 武田 亘平さん (H20MM)

注目の最先端設備を導入

「3次元インテリジェントシステム」は、3Dプリンタを使い、樹脂を使って印刷をしていくことで、立体ができていくというものです。印刷できるサイズは最大で幅490ミリ、奥行き390ミリ、高さ200ミリ。最新鋭の高速で高精度のシステムは東海地区の大学では初めての導入とか。安田仁彦教授(前機械学科教授、現特任教授)が文科省私立大学助成金に申請をして2010年3月に導入、現在は松室教授と武田さんを中心に管理運営されています。

大学教育に有効なシステム

これからのものづくりには欠かせないシステムであり、大学教育においても有効だと言います。「従来の設計教育ではCADで図面を引いて終わりでしたが、実際に試作品を作ることで自分の手で触って良い点も悪い点も実感することができるので、学生がものづく

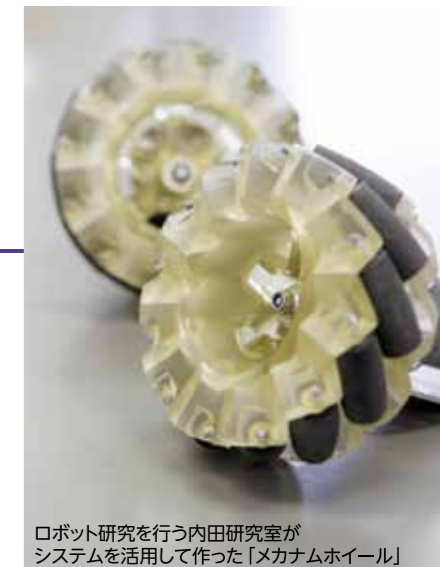
りに興味を持つきっかけになると考えています。さらにこのシステムを使える人材を育成して社会に貢献できるという部分もあります」と松室教授。



最新鋭の3Dプリンタと印刷してできた歯車

システムの効果や便利さを実感

「実際に使って試作品を作ることで、図面だけでは思いつかないような構造のアイデアが出てきたり、触ってみて不具合などを解決しながら図面を修正できるのがいいですね。しかも何日もかかる試作部品を短時間で形にできるのは大きなメリットだと思います」と武田さん。印刷に使う2種類の樹脂の割合によって堅さも調整できるので、樹脂製品なら実装試験もできるとあって、システムの良さを実感していると言います。今までは部品は既存のものを使



ロボット研究を行う内田研究室がシステムを活用して作った「メカナムホイール」

うことが多かったのが自分で設計した部品を使うことで研究も大きく進展しているそうです。

学外にも門戸を開き ものづくりを応援

「形状、機能、デザインを一度に、しかも短時間で確認できるがこのシステムの優れた点です。開発時間が短ければ、コスト面で貢献できますので、世界的な競争に遅れないためにもこのシステムを企業などで広く活用して日本のものづくりに貢献できたらと思っています」と話す松室教授。今後は大学内で活用するだけでなく、企業の皆さんにも利用していただくために、このシステムをピーアールしていきたいと考えているそうです。



システムの活用を進める松室教授



図面とできた部品を手に武田さん

企業からの依頼も多い小林教授

CLUB REPORT 鉄道研究部

(部員数 約12名)



大学祭で披露する鉄道模型を準備するメンバー

今年でなんと創立46年目を迎えた、愛工大の文化系クラブの中でも最も歴史の古いクラブの1つです。

活動内容は、模型の製作と運行、写真撮影、旅行などなど部員によってさまざまですが、とにかく「鉄道が好き!」であれば誰でも歓迎という雰囲気です。最近の活動の目玉は、丸栄百貨店の鉄道模型展におけるミニ電車の運行です。ミニ電車は、部員達の自作で、人を乗せて走ることができます。毎年、整理券を発行するほどの賑わいとなっており、今年も大勢のお客さんを乗せて快走しました。

このように工業大学らしい個性をはなちつつ、鉄道を楽しむという原点にそって、これからも活動していけたら、と思っています。

卒業生の皆様からの暖かいご声援をお願い申し上げます。



精巧な造りの模型

CLUB REPORT 学友会執行委員会

(部員数 約15名)



学年ごとに色違いのジャンパーを着た学友会のメンバー

学友会執行委員会では「学生にとって何が必要か」、「学生のために役に立てるにはどうすればいいか」など、日々企画構成を行っています。

最近では、学生のタバコ、ゴミのマナーを改善するため、一般常識の企画を行いました。期間は1ヶ月間でしたが、この企画を開催するにあたり何ヶ月も前から話し合いを重ね、多くの企画書を作成。委員会に提出するまでには苦勞する面も多々ありますが、先輩方からアドバイスをいただきながら二回生を中心に日々奮闘しています。この秋の大学祭では模擬店を出展。現在は、来年度に向けてより良い企画を協議、構成しています。課題は多々ありますが、これからも愛工大生のみなさんのために頑張っていきたいです。

OBの皆さまには、いつもお忙しい中、私たちのことを気にかけていただき感謝しています。また、イベントなどではご指導をいただきありがとうございます。

(会長 門永 奨)



大学祭の模擬店

図書館探訪

愛知工業大学附属図書館には、およそ30万冊の蔵書があり、卒業生の皆さんも利用することができます。各分野の専門書はもとより、一般雑誌に各種電子メディアなど、広い分野にわたるさまざまな形態の情報を利用可能な環境が整備されています。

『氷河の消えた山—梓川源流で時を刻む大地と生命—』
高木 誠 (工学部機械学科教授) 著
東京新聞 3,000円 (税込)
日本アルプスの槍穂高連峰を中心とする梓川源流域で、氷河の痕跡が刻まれた大地と生命の営みを系統的に記録した写真集。



『超明快 レベルラインテンカラ』
石垣 尚男 (経営学部経営学科教授) 著
つり人社 1,575円 (税込)
これからテンカラを始めようという人にはベシックを、ステップアップしたい人にはより釣れるテクニクを紹介する「テンカラ教科書」の決定版。



『ウェールズ史の女性たち』
吉賀 憲夫 (基礎教育センター総合教育教室教授) 著
晃学出版 2,800円 (税込)
ウェールズ史の一時代を代表する女性たち13人を選び、彼女らの生涯や、彼女らが生きた時代を描くことによりウェールズ史をまとめている。



『境界領域 プラズマ理工学の基礎』
高村 秀一 (工学部電気学科教授) 著
森北出版 9,975円 (税込)
核融合エネルギーの実用化に欠かせない、境界領域プラズマ物性ならびにプラズマ・表面相互作用を体系化した一冊。



愛工大の先生が書いた新刊を紹介します

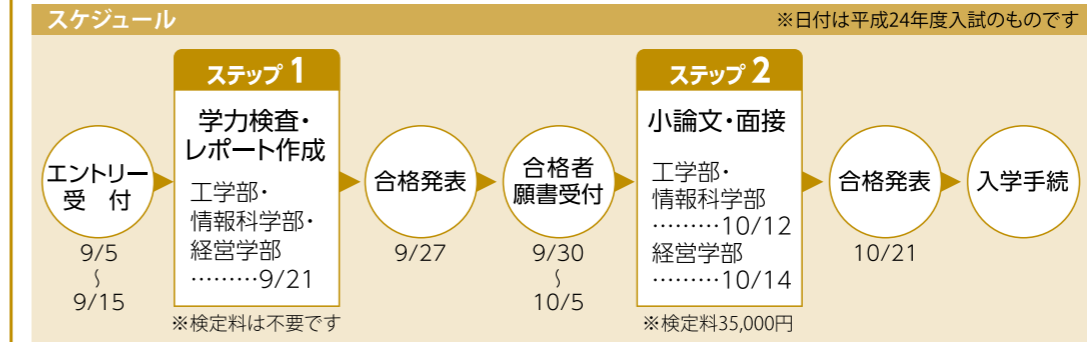
入試インフォメーション

同窓生入試で愛工大へ!

開学50周年の記念事業の一環で始まった同窓生入試は、同窓生のご子息を対象にした入試制度です。ぜひ、ご利用ください。

●多彩な入試制度を用意しています!

★早めの合格を目指すなら
推薦入試
指定校推薦 1期・2期
スポーツ推薦
女子学生推薦
一般推薦
★今からでも間に合う
一般入試(下記日程)
1月以降の出願で受験できます。



詳しくは入試課へお問い合わせください

入試日程

※出願に関して、前期日程A方式、前期日程M方式、後期日程M方式、センター3期は×切日必着(持ち込み可)で、これ以外入試は×切日当日の消印有効です。

入試区分	入試の名称	出願期間	試験日	実施学部	試験会場	合格発表日
前期日程	一般入試 前期日程 A方式(記述式)	1/6(金)~20(金)※	1/27(金)	全学部	本学(八草キャンパス)、名古屋、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山	2/10(金)
	一般入試 前期日程 M方式(マークセンス式)		1/28(土)		本学(八草キャンパス)、名古屋、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山、金沢、松本、岡山、福岡	
	センター試験利用入試 前期日程 M方式(マークセンス式)	1/6(金)~13(金)	1/29(日)		本学(八草キャンパス)自由ヶ丘キャンパス、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山、金沢、松本、岡山、福岡	
後期日程	一般入試 後期日程 M方式(マークセンス式)	2/1(水)~23(木)※	3/2(金)	全学部	本学(八草キャンパス)、岐阜、四日市、津、浜松	3/8(木)
	センター試験利用入試 センター2期(2教科利用)	2/27(月)~3/8(木)※			本学が課す試験はありません。	3/17(土)
	センター試験利用入試 センター3期(3教科利用)				本学が課す試験はありません。	

大学がよくわかる、オープンキャンパスへ!

オープンキャンパスは、大学の雰囲気を体感したり、学びの内容を確認できるデモンストレーションの見学、入試に関する相談などができるだけでなく、先生や学生と直接ふれあえるいい機会です。今年は夏(7/17・18)と秋(10/8)に開催しました。ぜひ一度、お出かけください。

就職インフォメーション

不況でも高い就職率を誇る!

2011年3月卒業生就職率 **89.6%**
工学部 **90.2%**
経営情報科学部 **87.5%**

心強いバックアップ!

同窓会組織「瑞若会」はもちろん、大学と保護者との密な連携をとる「愛知工業大学後援会」や中部財界の主要企業約700社、300人以上の個人会員が参加する「愛名会」は、就職活動を支えてくれる頼もしい存在です。

万全の就職サポート! キャリアセンターがお手伝い

入学した直後から、4年間にわたって段階的、継続的に就職支援をしています。

<p>1年次 大学を知る!</p> <p>就職に向けての有意義な学生生活の過ごし方についてのアドバイスや自己発見レポートの作成をします。</p> <p>▲個別相談も行うキャリアセンター</p>	<p>2年次 目標を持つ!</p> <p>自己プロGRESSレポートやインターンシップを通して、自分の興味や強みを明確にして、進路目標を具体化できるようにアドバイス。</p> <p>▲インターンシップで就業体験</p>	<p>3年次 就職活動の準備!</p> <p>秋からの企業へのエントリーに向けて、下記のような様々な支援プログラムを行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎就職適性検査 ◎SPI模擬試験 ◎就職対策講座 ◎学内企業展 など <p>人事担当者と面談できる学内企業展</p>	<p>4年次 本格的に就職活動!</p> <p>3年生の春休み頃から本格化する就職活動。いち早く内定を勝ち取るために、面接対策講座や個別の就職相談を行います。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

キャリアセンターから~同窓生の皆様へ

当センターでは、各専攻の担当教員と連携をとって就職指導・支援を行っています。インターンシップ制度を活用した職場体験も積極的にすすめておりますので、学生受け入れにご協力いただける場合はキャリアセンターまでご連絡ください。

お問い合わせ先 キャリアセンター TEL 0565-48-4655 (直)
e-mail syusyoku@aitech.ac.jp

また、学内企業展や地元企業交流会も行っております。求人に関しましては、WEBによる求人登録システムがありますので、ぜひ、ご利用ください。URL http://www.kyujin-navi.com/uketsuke/



多くの学生で熱気あふれる会場

瑞若会主催の学内企業展開催!

平成23年5月21日(土)に開催した瑞若会主催の学内企業展。「同窓会50周年を前に何か協力できないかということで、キャリアセンターに運営をお願いして学内企業展を開催することにしました」と松本壮一郎同窓会副会長(46A)。

昨年に続き今年が2回目で、午前36社、午後34社の計70社の企業が参加しました。景気の低迷や東日本大震災の影響もあり、就職状況が厳しいとあって、出展企業の担当者の説明を真剣に聞き入り、熱心に質問する姿が多く見られました。

同窓生が参加して企業説明

出展企業の一つ、吉田電気工事株式会社のブースでは、愛工大卒業生2名も担当者と同席して、学生に対応。「会社

が設立65周年になり、次の30年を見据えて優秀な人材を確保したいとの思いで参加しました」と担当の取締役小保川直樹氏。多くの学生と直接、話ができるいい機会だと言います。

吉田電気工事株式会社の方皆さん



平成24年度の開催に向けて

平成24年度は5月19日(土)または26日(土)の開催を目指して現在、企画立案中です。ご参加を希望される場合は、平成24年2月末日までに愛知工業大学・キャリアセンターまでFAXまたはe-mailにてお申込みください。ご不明の点などは、下記へお問い合わせください。応募者多数の場合は勝手ながら抽選の上、出展企業を決定します。結果は3月末までに愛知工業大学・キャリアセンターよりご連絡させていただきます。

申し込み先 TEL 0565-48-4655 (直) FAX 0565-48-6140
キャリアセンター e-mail syusyoku@aitech.ac.jp

退職教員紹介

2011年(平成23年)3月31日付で退職を迎えた先生方のコメントをご紹介します



内田 悦行
工学部電気学科教授

1986年電子工学科所属となり、情報通信工学科創設準備に携わり、1988年創設。情報ネットワーク社会を構築し運用する希望に燃えた若者の教育と、光と情報をメインテーマとする研究に25年間情熱を傾けてきました。ハードからソフトまで現在の情報社会構築に寄与できたと嬉しく思っています。名誉教授の称号を拝受し、新たにときめく人生を目指し故郷高知で充電中です。日進月歩の情報社会。瑞若会の皆様のご活躍をお祈りしています。



堀田 厚生
工学部電気学科教授

1999年10月より今年3月まで電子工学科と電気学科に在籍しました。半導体、トランジスタ、LSI、CPUなどデジタル回路を基礎から講義しました。また、その応用としてFPGAを用いた論理設計およびマイコンのアセンブラプログラムを組む演習を実施し、電子装置を設計するハードとソフトの基本技術を修得する第一歩の教育を行いました。社会で役立っていると信じています。愛知工業大学の今後の発展をお祈り申し上げます。



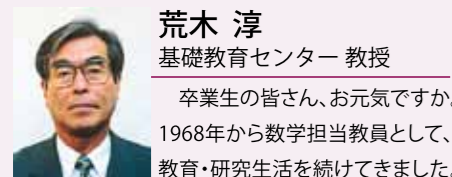
架谷 昌信
工学部機械学科教授(現特任教授)

7年間、大変お世話になりました。実学を中心とした教育の実践は、素晴らしいことです。古いように感ずる諸君もいるかも知れませんが、21世紀社会に求められているのは、実学の意義を再検証し、地に足のついた生涯実学の出発点を新たな大学教育の使命として再構築していくことです。これこそ、愛工大が伝統的に求めてきたことです。「愛工大、自信をもって前進しよう!」この言葉を送る言葉として定年の挨拶とします。



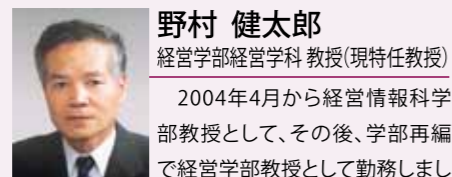
安田 仁彦
工学部機械学科教授(現特任教授)

機械学科に知能機械工学専攻が新設された年に愛工大に着任しました。新設専攻の教育を議論するので参加せよと、着任前に声が掛かり参加したことが思い出されます。初めての4年で専攻の基礎作りが終わり、ほっとする間もなく専攻をさらに発展させたいと機械創造工学専攻の新設が検討されることとなり、設置に協力させていただきました。いい経験をさせていただき、充実した気持ちで7年を過ごしました。ありがとうございました。



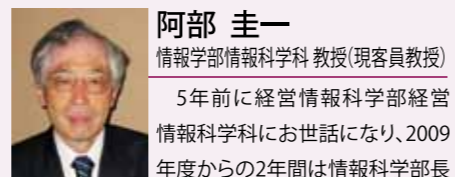
荒木 淳
基礎教育センター 教授

卒業生の皆さん、お元気ですか。1968年から数学担当教員として、教育・研究生生活を続けてきました。担当の数学は工学部の学生には基本的な学問で、単に道具としてでなく、数学を通して理論的な考え方、ものの見方を身につけてほしいと願いつつ教壇に立ってきました。勤務し始めた頃に比べると大学は随分と発展しました。教員生活の全てが懐かしい思い出です。卒業生の皆様のご活躍と瑞若会のご発展をお祈りいたしております。



野村 健太郎
経営学部経営学科教授(現特任教授)

2004年4月から経営情報科学部教授として、その後、学部再編で経営学部教授として勤務しました。今春、定年退職しましたが、特任教授として引き続き奉職しております。会計学基礎論、財務管理論、経営分析論、演習等を担当してきました。大学院経営情報科学研究科でも特殊講義と演習を担当し、休講をしないよう努めてきました。趣味は謡曲、カラオケ、囲碁(ヘボ)等です。卒業生の皆様のご発展を祈念いたします。



阿部 圭一
情報学部情報科学科教授(現客員教授)

5年前に経営情報科学部経営情報科学科にお世話になり、2009年度からの2年間は情報科学部長を務めさせていただきました。最後は突然の入院でご迷惑をおかけしましたが、皆様のご厚意のおかげでほぼ回復しました。4月以降は非常勤の客員教授として勤務しながら、やり残した仕事を続けています。日本の大学の今後には非常に厳しいものがあると考えますが、皆様と名古屋電気学園、愛知工業大学のご発展をお祈り申し上げます。

本部の会議		各種行事	
1月			
2月		▲私立大学同窓会連合会定例事務局長会議(2/25)	
3月	第5回事務局会議開催(3/4) 第5回総務常任委員会開催(3/11)	●平成22年度 卒業式(3/23)「瑞若賞」贈呈 卒業生に記念品配布(3/23)	
4月		●平成23年度入学式(4/1) 新入生に「START-UP」配布	
5月	第1回事務局会議開催(5/10) 第1回総務常任委員会開催(5/16)	●瑞若会(同窓会)企業展(5/21) ■第2回AIT関西交流会(大学訪問)(5/21)	
6月	●瑞若会理事会・支部長会議開催(6/18)	●新会員のデータ入力(6/6) ●新会員の同窓会費入金処理(6/6) ●「みずわか」編集委員会開催(6/17) ▲愛知県私立大学同窓会連合会平成23年度理事会・総会(6/25)	
7月	第2回事務局会議開催(7/20) 第2回総務常任委員会開催(7/27)	■中・四国支部同窓会(7/9)	
8月			
9月	第3回事務局会議開催(9/22) 第3回総務常任委員会開催(9/28)	▲関西AITオープンフォーラム(9/10)(京都タワーホテル) ▲北陸AITオープンフォーラム(9/17)(金沢都ホテル) ■北陸支部総会(9/17)(金沢都ホテル) ▲岐阜AITオープンフォーラム(9/24)(岐阜グランドホテル)	
10月		▲三重AITオープンフォーラム(10/1)(四日市都ホテル) ■三重支部総会(10/1)(四日市都ホテル) ■電気工学同窓会(10/8) ●愛工大祭 開催への援助(10/6~10/9) ●工科展(10/9)「瑞若会(同窓会)特別賞」贈呈 ▲長野AITオープンフォーラム(10/16)(ホテルブエナビスタ) ▲静岡AITオープンフォーラム(10/22)(ホテルクラウンパレス浜松) ▲愛知県私立大学同窓会連合会拡大事務局長会議(10/28) ▲中・四国AITオープンフォーラム(10/29)(岡山ロイヤルホテル)	
11月		●駅伝大会(11/8)「瑞若会(同窓会)特別賞」贈呈	
12月	第4回事務局会議開催 第4回総務常任委員会開催	●「みずわか vol.44」会員へ郵送	

凡例: ●本部事業 ■学内事業 ●支部事業 ▲その他

人事異動に関するお知らせ

新任教員	工学部 電気学科	教授	箕輪 昌幸	
	都市環境学科	教授	呉 承寧	
	情報科学部 情報科学科	教授	水野 忠則	
	経営学部 経営学科	教授	田村 隆善	
	工学部 応用化学科	准教授	西村 聡子	
人事異動(卒業生関係)	新任 工学部電気学科	講師	五島 敬史郎	H10R
	建築学科	講師	佐野 泰之	H6A
	愛知工業大学名電高校	教諭	小川 喜信	50D
		教諭	細野 耕司	55B
	新規採用 建築学科	技術職員	近藤 信彦	H4D
	昇格 工学部電気学科	准教授	中野 寛之	H10E
	愛知工業大学情報電子専門学校	教授	村瀬 正敬	55R
	管理部管財課	事務主任	葛谷 新一郎	H14K
	図書課	事務主任	篠原 幸男	H3C
	電気学科	教授	内田 悦行	
退職教員 平成23年 3月31日付	教授	堀田 厚生		
	教授	穂積 直裕		
	教授	架谷 昌信		
	教授	安田 仁彦		
	教授	小池 幸男		
	教授	八木 明彦		
	教授	荒木 淳		
	教授	野村 健太郎		
	教授	大野 勝久		
	教授	阿部 圭一		

平成22年度 決算書(収支計算書)				
経常経費(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)				
■収入の部				
科目	予算額	決算額	差 額	備 考
入会金(基本金)	4,400,000	4,576,000	176,000	1,086人+ 58人
終身会費	22,000,000	23,558,000	1,558,000	1,086人+103人
年会費	0	0	0	
受取利息	700,000	715,271	15,271	
雑収入	0	0	0	
預り金	0	11,420	11,420	
当期収入合計①	27,100,000	28,860,691	1,760,691	
前期繰越金②	52,690,703	52,690,703	0	
収入の部合計 ①+②	79,790,703	81,551,394	1,760,691	
■支出の部				
科目	予算額	決算額	差 額	備 考
学科・支部援助費	3,000,000	2,347,834	△ 652,166	
名簿管理・IT関連費	1,500,000	1,182,300	△ 317,700	
新校舎見学会費	1,800,000	1,184,707	△ 615,293	
会報発行費	7,200,000	7,018,535	△ 181,465	
大学祭援助費	600,000	600,000	0	
卒業記念品費	2,500,000	2,163,800	△ 336,200	
準会員支援費	2,000,000	2,053,866	53,866	
(小計)	18,600,000	16,551,042	△ 2,048,958	
人件費	3,000,000	2,823,664	△ 176,336	
消耗品費	600,000	150,506	△ 449,494	
会議費	1,500,000	1,203,949	△ 296,051	
慶弔費	100,000	93,000	△ 7,000	
私大同窓会連合会費	150,000	118,000	△ 32,000	
雑費・手数料	150,000	171,359	21,359	
(小計)	5,500,000	4,560,478	△ 939,522	
予備費	400,000	0	△ 400,000	入会金
基本積立金へ	4,400,000	4,576,000	176,000	
当期支出合計③	28,900,000	25,687,520	△ 3,212,480	
当期収支差額④(①-③)	△ 1,800,000	3,173,171	4,973,171	
50周年準備費へ	3,000,000	3,000,000	0	
次期繰越金⑤(②+④-⑤)	47,890,703	52,863,874	4,973,171	
支出の部合計 ③+⑤+⑥	79,790,703	81,551,394	1,760,691	

基本積立金(案)(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)				
■収入の部				
科目	予算額	決算額	差 異	備 考
経常経費から繰入	4,400,000	4,576,000	176,000	入会金
前期繰越金	188,044,087	188,044,087	0	
収入の部合計	192,444,087	192,620,087	176,000	
■支出の部				
科目	予算額	決算額	差 異	備 考
次期繰越金	192,444,087	192,620,087	176,000	
支出の部合計	192,444,087	192,620,087	176,000	

50周年準備費(案)(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)				
■収入の部				
科目	予算額	決算額	差 異	備 考
経常経費から繰入	3,000,000	3,000,000	0	
前期繰越金	18,115,326	18,115,326	0	
収入の部合計	21,115,326	21,115,326	0	
■支出の部				
科目	予算額	決算額	差 異	備 考
次期繰越金	21,115,326	21,115,326	0	
支出の部合計	21,115,326	21,115,326	0	

50周年準備費(案) 内訳明細				
基本積立金	192,620,087			
経常経費	52,863,874			
50周年準備金	21,115,326			
合計	266,599,287			

会員計報					
電気工学科	鈴木 慧	37E	電子工学科	尾関 和志	61R
	吉田 嘉昭	38E	応用化学科	藤田 忠敬	52C
	河口 茂夫	41E	機械工学科	杉田 勝貞	46M
	林 俊樹	42E		土肥 実博	49M
	高坂 哲雄	43E	土木工学科	米村 六衛	49D
	駒田 健治	47E		西野 昭	51D
	福岡 隆信	47E		福岡 茂	54D
	内海 隆信	47E	建築学科	野々村 博	46A
	野沢 正己	49E		古川 則夫	49A
	野田 初雄	50E		樋上 亨	H12A
土木工学科	桑名 俊一	61E	長島 典子	H14A	
	伊藤 寿一	63E	青木 宏	58K	
	島倉 昌史	H10E	原田 健	H9K	